

暮らしているの中の

仏教

①

市野 智行

人生のページ

前回は「一つの方向に身を向ける」ことの意味を確かめました。そこで今回は、浄土真宗の本尊である阿弥陀仏の姿を手掛かりに、仏教の人間観について尋ねてみたいと思います。

私は真宗大谷派の僧侶ですが、真宗本廟（東本願寺）でも、名古屋の東別院でも、私が所属している寺院でも、阿弥陀仏は「立像」として安置されています。座像ではありません。皆さんは、なぜ阿弥陀仏が立ち上がったになっていると思いますか。ある小学生に同じ質問をしたことがあります。その時は「悪いことをして立たされた!」と答えてくれました。もちろん阿弥陀仏は悪いことはしていませんが、「立たされた」というのは、実は大切な視点です。

前回も紹介した善導という僧侶は、阿弥陀仏が立ち上がった意味を「端座して機に赴かざるや」と自問しています。端座とは姿勢を正して座ることです。つまり立ち上がった阿弥陀仏に對し、なぜ座ったまま人々を救

阿弥陀仏を「立たせた」私たち

おつとはしなかったのかと尋ねているのです。

私たち人間は、立っているほうが視野も広くなり、次の一歩も早く踏み出すことができます。しかし、仏は座っていても苦悩の人々の声を聞き漏らすことなく、また即座にその人の前に現れることができます。すなわち端座こそ仏の仏たる所以なのです。にもかかわらず、なぜ立ち上がったのか、その振る舞いは「輒然として輕挙（安易で輕々しい）」ではないか、と善導は問うわけです。

これに對し「業繫の牢」を生きる人々を救うには立ち上がるほかなかったのだと答えます。業繫とは煩惱に基づく私たちの行いを意味し、牢とは牢獄のことです。つまり阿弥陀仏は煩惱の世界に閉じこもり、牢獄のような世界に生きる私たちを救うために立ち上がったのです。言い換えれば、煩惱にがんじがらめになっていながら、そのことに気づかない私たちが阿弥陀仏を「立たせた」のです。

「繫」とは、煩惱の異名で「つなぎとめる」という執着心を強調した言葉です。その執着の代表が貪・瞋・痴の三毒です。消そうと努力しても必ずまた湧き起こってくることから、三垢ともいいます。私は三毒を

「貪」「瞋」「痴」への執着、「正しさへの執着」と受け取っています。

そして三毒の中で最も根の深いのが、自分の正しさを握りしめ、そこに執着していく「痴」です。いつでも正しいのは自分です。自分自身を省みることはできません。加えて、現代は間違えることが許容されにくい時代です。スマートフォンを駆使しさまざまな情報を取り込み、間違えない自分を装っています。結局、行きつく先は正しい自分と間違っている相手と断っていく二元的な世の中に違和感を抱き、息苦しさを感じている人も少なくないでしょう。

私はそのような今だからこそ、仏教という、わが身、わが心を知らせてくれる「鏡」が必要なのだと思います。命ある限り私たちが三毒がなくなることはありませぬ。阿弥陀仏は、三毒に開き直る道ではなく、常に私たちが三毒の身であること

を「立像」の姿を通して教え続けています。その姿は同時に、他者を敬い、他者と共に生きてほしいという阿弥陀仏の願いの表現でもあると思うのです。

宗教トピックス

- ◇愚深会定例法座 6、12、13日後1・30、名古屋市中区橘2、東別院会館。鶴田義光師。各500円。
- ◇名古屋朝拝会 7日前7・30、名古屋市中区金山2、金山クリスチャンセンター。南尚浩牧師。
- ◇岐阜慈光会 7日後

- 2、岐阜市大門町、上宮寺。荒山淳師。千円。
- ◇無用塾 9日後1、愛知県飛島村元起2、長昌院。坐禅、「宝鏡三昧」提唱。
- ◇真宗3連続講座 11日後2、名古屋市中区那古野1、慶栄寺。「歎異抄について」滝義範住職。
- ◇仏法講座 12日後1・30、名古屋市中区丸の内2、

- 清和会館。「本願の仏道」尾畑文正師。500円。
- ◇参禅会 12日後3、名古屋市中区代官町、永平寺名古屋別院。500円（初回は千円）。
- ◇信道講座 はじめての『教行信証』『真仏土巻』13日前10、名古屋市中区橘2、真宗大谷派名古屋教務所議事堂。300円。

- ◇花まつり「やすらぎ説法」13日前11、愛知県犬山市の継鹿尾観音寂光院。
- ◇ほどける仏教 13日後1、愛知県安城市野寺町、本証寺。藤原智之師。千円。
- ◇真宗入門講座 16日後1・30、津市一身田町、高田会館ホール。『親鸞聖人伝絵』に見る聖人の生涯」中村宜成研究員。